

CGMによる 血糖変動の見える化と 糖尿病治療の最適化



座長

愛知県薬剤師会会長
ヨシケン岩月薬局

岩月進先生

演者

東京慈恵会医科大学
糖尿病・代謝・内分泌内科 教授

西村理明先生

日時

2018年**10月14日**(日)
12:15~13:15

会場

第6会場
(ウインクあいち 大会議室1001)

事前予約について

- ランチョンセミナーは整理券制です。
- 事前登録された方に優先的に配布されます。残りの整理券については当日配布します。
- 詳しくは学術集会ホームページ「ランチョンセミナー予約」をご参照ください。
<http://jpds2018.jp>

CGM による 血糖変動の見える化と 糖尿病治療の最適化



演者

東京慈恵会医科大学
糖尿病・代謝・内分泌内科

教授 西村理明 先生

【抄録】

糖尿病の治療目標は、血糖値をできる限り健常人に近づけ、糖尿病の合併症の発症を阻止すること、さらに合併症がすでにある場合はその進展を止めること、そして健常人と変わらない寿命を達成することである。

現在、糖尿病患者における、主要な血糖コントロール指標として HbA1c と血糖値が用いられている。しかし、HbA1c は基本的に、長期にわたる血糖変動の平均値を反映する指標であり、日々の細かな血糖変動を反映しない。

糖尿病患者の血糖変動を把握するための一般的な手段は、血糖自己測定 (Self Monitoring of Blood Glucose: SMBG) である。しかし、SMBG は測定時点の血糖値を把握することができるが、測定時点の血糖値がはたして上昇傾向にあるか、変化がないのか、下降傾向にあるのか、更に測定時点間の血糖変動の全容を推測することは困難である。

この問題を解決すべく、24時間連続して血糖変動を把握することができる持続血糖モニター (Continuous Glucose Monitoring: 以下 CGM) 機器がアメリカで1999年に開発され、我が国では2009年に承認された。

近年、簡易型 CGM とも呼べる Freestyle リブレシリーズ (リブレプロとリブレ、両者とも SMBG による較正が不要) が登場してきた。Freestyle リブレは患者自身が血糖変動を常に見ることができるリアルタイム CGM に近い機器で、2017年9月に保険の適応となった。

CGM が示すさまざまな血糖変動のパターンを見て感じるのは、その血糖変動を耐糖能正常者の様に食後高血糖がほぼ皆無で低血糖もない状態にまで近づけることが、糖尿病に起因する合併症の発症を完全に予防するために必要なのではないかとということである。

また、糖尿病症例における血糖変動のパターンにはおそらく個人差があり、このパターンを見ながら食事・運動療法のみならず薬物療法を含めた適切な治療法を選択する、いわゆるテーラーメイド医療を実践することが、究極の血糖コントロールをもたらすのではないかと信じている。

DPP4 阻害薬は、近年、糖尿病患者に対して新規に処方される薬剤の7割にも達しているが、CGM により DPP4 阻害薬によって血糖変動が制御されているか否かについても評価することが可能となった。

今後、より簡便な CGM 機器が普及することにより、低血糖を起こすことなく血糖変動幅を狭めることが可能となり、よりよい血糖コントロールを達成できる患者数が増加するであろう。CGM の普及により、糖尿病の生活への質の影響、そして生命予後への影響が小さくなるか、様々な指標を用いて評価しなければならないことも、また私たちに課された義務である。